

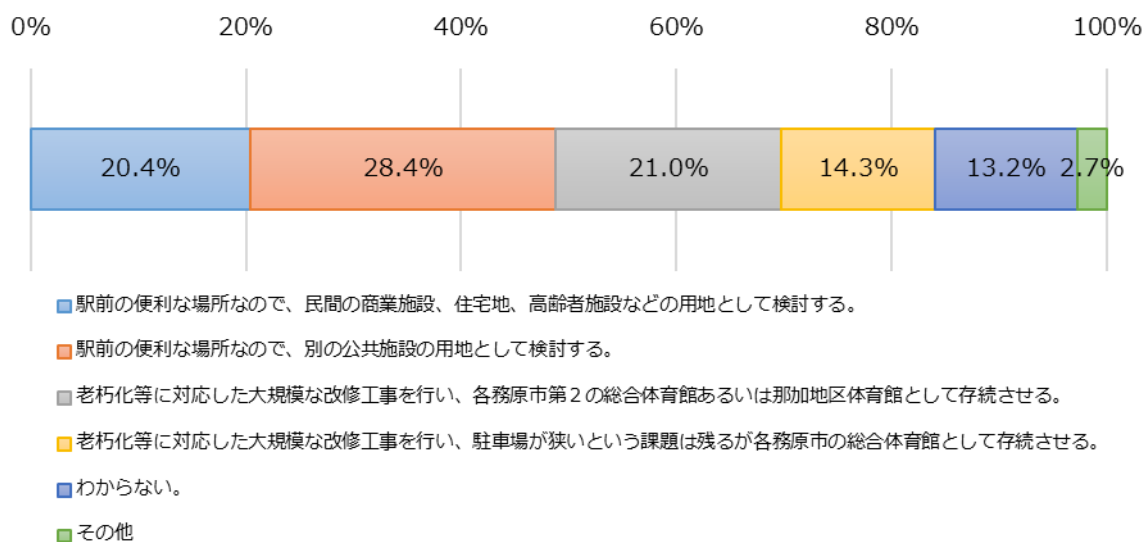
3. 現総合体育館の取り扱いについて

(1) 市民アンケート

基本構想に示される令和2年9月に市民3,000人（有効回答1,259通）を対象に実施したアンケートの結果、現総合体育館と敷地の利用については、「別の公共施設用地として検討」が最も多く約3割を占め、次いで多い「大規模改修により第二の総合体育館または地区体育館として存続」や「駅前の好立地を生かした検討」はともに2割を占めており、回答者の意見は3つに分かれています。

(2) 現在の総合体育館とその敷地はどうすべきだと思いますか。（名鉄新那加駅前の約16,000㎡の敷地）（どれか1つに○）

⇒最も多い回答は、「駅前の便利な場所なので、別の公共施設の用地として検討する」で28%、次いで「老朽化等に対応した大規模な改修工事を行い、各務原市第2の総合体育館あるいは那加地区体育館として存続させる」で21%、「駅前の便利な場所なので民間の商業施設、住宅地、高齢者施設などの用地として検討する」で20%であった。



有効回答数：1,206 通

（「各務原市新総合体育館整備基本構想」より）

(2) 過去の委員会での意見

令和 2 年 11 月に開催された第 3 回各務原市総合体育館建設基本構想・基本計画策定委員会では、現総合体育館の取り扱いに関して、以下の意見が出されました。

委員	・現総合体育館について、17～22 時の利用枠はいっぱいの状態で、19～22 時は特にだが、抽選にかけても当たらない団体が多い。土日の大会も重複しているところが多い。 ・バドミントンや卓球など、空調を必ずしも必要としない競技を分散させるためにも現総合体育館を残す必要があると思う。 ・アンケート結果の団体回答も大会については移せるが、チームレベルで移すことは難しいのではないかと。
事務局	・アンケートでは活動拠点を移せるかという質問で回答いただいている。
委員	・地域スポーツの拠点として残す必要があると考える。現状、抽選により利用枠を取り合っていることから不足している状況にあると考えられる。 ・定期借地等何年かを使用して、最後には手放すという考え方もある。
委員	・現在の体育館の配置は地域に偏りがある。会議をする場とスポーツの場を合わせたいというニーズには新総合体育館で対応していくことも考えられる。 ・民間としても負担が重くなると難しくなる。
委員	・現総合体育館を残したい気持ちはあるが、今の状態では持たないため、改修が必要となり負担が大きくなり、新総合体育館と併せて維持していくのは大変であると思われる。 ・人口減少の中、費用対効果を考えると、会議室自体は別施設で代替は可能であり、大会の開催についても、他市とも分担していくことも検討が必要である。
委員	・残したい気持ちはあるが、先のことを考えると、耐震や運営面で金銭の問題が気になる。 ・すぐに新総合体育館ができるわけではないため、その間に考えてはどうするか。最後には無くさないといけなくなるとは思っている。
委員	・現総合体育館を第 2 の体育館や武道館として利用することが考えられるが、メンテナンスに係る費用がさらにかかってくる。新総合体育館に集約する考えも必要である。建て替えのための土地の確保も課題となる。現総合体育館の改修費も検証しておく必要はある。
委員	・現総合体育館の利用について、体育館調整会議にて決めている。現時点でかなりの重複が見られていることから、今後大きな大会を誘致したら市民大会が今よりもできなくなるのではないかと不安がある。バスケットボールで言えば、総合体育館と桜体育館、那加中学校でしか大会ができない。
委員	・借りたくても借りられない状況もあるが、維持をしていくとなるとコストもかかるため、判断が難しい問題である。
副委員長	・現時点で判断が難しい問題である。現総合体育館の修繕費や維持費、新総合体育館の運営費までを踏まえて、検討が必要である。
委員長	・今まであったものを無くすことについて、関係者は抵抗を感じるものであるが、存続させると費用の問題もある。